

「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」 日本人参加経験者に係る追跡調査報告書[概要] —国際交流に参加した小中学生の10年後の姿—

平成28年4月12日

国立青少年教育振興機構では、平成14年より「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」を実施している。本調査では、事業に参加した小中学生の概ね10年後の実態を把握するために追跡調査を行った。

調査の概要

1 調査の目的

「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」に参加した日本及びミクロネシア地域の小中学生の概ね10年後の実態を把握することで、本事業の成果及び効果を発信する。

2 調査内容

国立青少年教育振興機構では、日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成するため、平成14年から「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」を実施している。本調査では、事業に参加した小中学生の概ね10年後の活動や意識を把握し、同世代の青年と比較する分析を行った。なお、ミクロネシア地域から参加した小中学生からの質問紙はほとんど回収できなかったため、集計の対象外とした。

3 調査対象

平成14年～18年に「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」に参加した小学校5年生・6年生、中学校1年生・2年生（18歳～26歳（調査時））

*事業に参加した小中学生の選考は、全国公募で申込のあった者の中から抽選を行った（男女同比率）。

4 調査主体・調査実施機関

国立青少年教育振興機構

5 調査実施期間

平成27年1月から平成27年2月

6 調査方法

(1) 調査対象者の抽出及び回収数

調査時に18歳以上である平成14年から平成18年の参加経験者（1,004名）のうち、住所が判明できた590名を調査対象者とした。その内、181名（男性：75名、女性106名）から調査票を回収した（回収率30.7%）。

(2) 調査方法

調査対象者に調査票を郵送し、返送を依頼した。

【問い合わせ先】 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部国際・企画課／青少年教育研究センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号 TEL：03-6407-7750 FAX：03-6407-7720

<主な調査結果>

1. 本事業参加者は、積極的に国際交流事業や海外留学、ボランティア活動に参加している。

- 本事業参加者の 42.8%が本事業以外にも国際交流事業に参加している（本事業以外に1回：30.1%、本事業以外に2回以上：12.7%）。（P2）
- 本事業参加者の 29.8%が本事業参加後、「海外留学をした（している）」と回答している。これは、日本人大学生全体の留学者の割合 2.15%（平成 24 年）と比べて大きく上回っている。（P2）
- 本事業参加者の 29.8%が本事業参加後、「日本国内でボランティア活動に参加するようになった、または参加の頻度が増えた」と回答している。（P3）
（参考）同年代の青年（20～24 歳）の一年間にボランティア活動を実施した割合は 21.2%である。（「社会生活基本調査」平成 24 年 7 月：総務省統計局）
- 本事業参加者の 14.9%が本事業参加後、「交流した外国の人と交流を続けている」と回答している。また、38.7%が、「国際交流事業と一緒に参加した日本人と交流を継続している」と回答している。（P4）

2. 本事業参加者の現在の自尊感情や人間関係能力などの「体験の力」が同世代の青年と比べて高い！

平成 22 年に本機構で子供の頃の体験と大人になった時の資質・能力（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、人間関係能力、職業意識、文化的作法・教養の 7 分類に区分、以下「体験の力」という）について調査を行い、その相関関係について分析した（「子どもの体験活動の実態に関する調査研究（平成 22 年 10 月）」（以下『体験実態調査』という。))。

今回の調査において、併せて同様の調査を行い、『体験実態調査』と比較してみた。

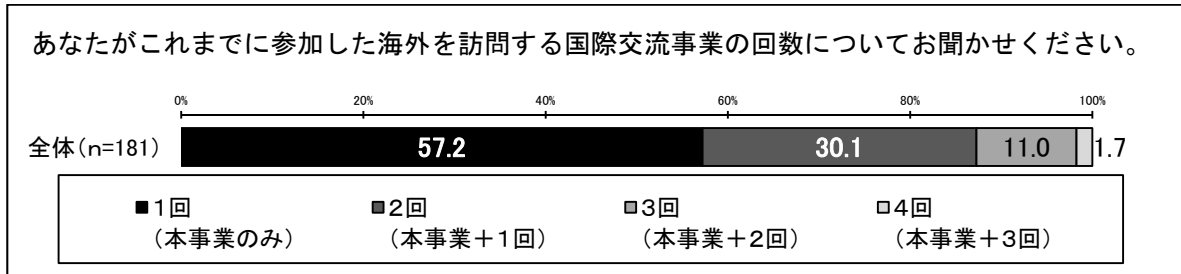
- 本事業参加者の「体験の力」は全てのカテゴリーにおいて、『体験実態調査』における 20 歳代の結果よりも高くなっている。特に、自尊感情及び人間関係能力についてはその差が大きい。（P5）
- 個別の質問について見ると、「叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う」「交通規則など社会のルールは守るべきだと思う」が「とてもあてはまる」と回答した割合が高くなっており、『体験実態調査』の比較では、「いろいろな国にいてみたい」「できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う」の差が大きい。（P6-7）
- 本事業参加者の中でも、国際交流事業参加回数が増えるほど「体験の力」の各カテゴリーに関する項目について「とてもあてはまる」と回答した割合が高くなる傾向がある。（P6、P8-9）

1. 本事業参加者の事業参加後の活動

【本事業参加者の4割以上が、本事業以外にも国際交流事業に参加している】

- 本事業参加者の42.8%が、本事業以外にも国際交流事業に参加している（本事業以外に1回：30.1%、本事業以外に2回以上：12.7%）。

図1 国際交流事業参加回数



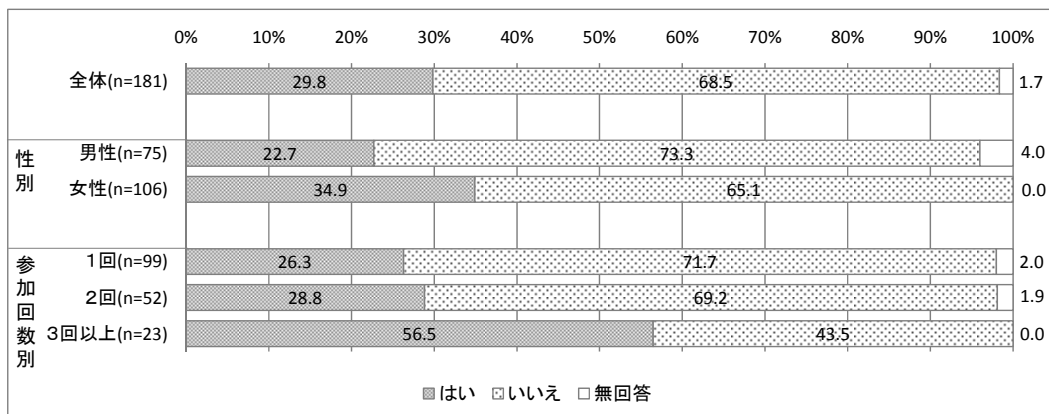
※ 国際交流事業への参加回数

国際交流事業への参加回数は本事業のみを「1回」、本事業に加えて1回参加したものを「2回」、本事業に加えて2回参加したものを「3回」、本事業に加えて3回参加したものを「4回」とした。この先の集計にあたっては、「4回」と回答した割合が1.7%と少ないため、「3回」と回答したものと合計し、「3回以上」とした。

【本事業の参加者は、その後、積極的に海外留学をしている】

- 本事業参加者の29.8%が本事業参加後に、「海外留学をした（している）」と回答している。これは、日本人大学生全体の留学者の割合2.15%（平成24年）と比べて大きく上回っている。
- 性別に見ると、女性の方が男性よりも本事業参加後に、「海外留学をした（している）」と回答した割合が高い。
- 本事業を含む国際交流事業参加回数別に見ると、国際交流事業参加回数が増えるほど本事業参加後に、「海外留学をした（している）」と回答した割合が高くなる傾向がある。特に「3回以上」は留学した割合が高く、5割以上である。

図111 「海外留学をした（している）」の回答



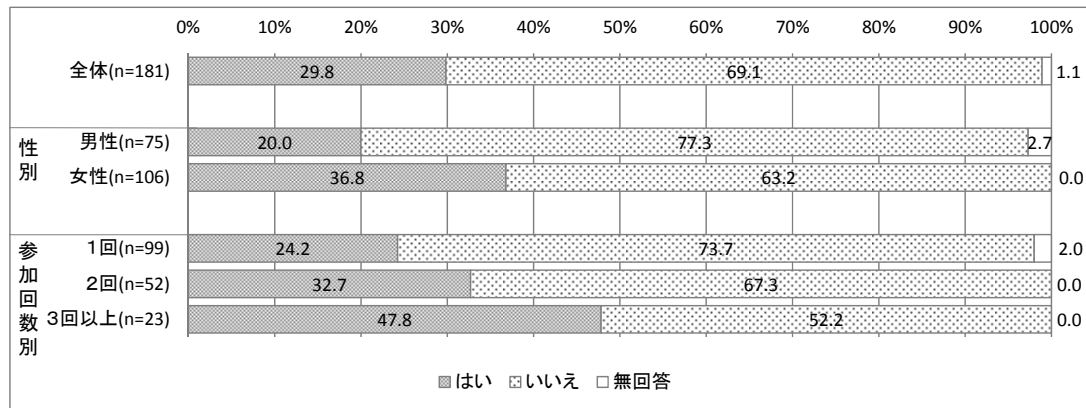
【参考】大学生全体の留学者の割合は下記により算出

- ① 日本から海外への留学者数（平成24年度）：60,138名
（「ユネスコ統計局、OECD、IIE等における統計」平成27年2月：文部科学省）
 - ② 高等教育機関在籍日本人学生数（平成24年度）：2,796,057名
（「平成24年度学校基本調査（確定値）」平成24年12月：文部科学省）
- ※ 日本人大学生全体の留学者の割合：①÷②×100=2.15%

【本事業の参加者は、その後の日本国内でのボランティア活動も積極的に参加している】

- 本事業参加者の29.8%が本事業参加後に、「日本国内でボランティア活動に参加するようになった、または参加の頻度が増えた」と回答している。
(参考) 同年代の青年(20~24歳)の一年間にボランティア活動を実施した割合は21.2%である。(「社会生活基本調査」平成24年7月：総務省統計局)
- 性別に見ると、女性の方が男性よりも本事業参加後に、「日本国内でボランティア活動に参加するようになった、または参加の頻度が増えた」と回答した者の割合が高い。
- 本事業を含む国際交流事業参加回数別に見ると、国際交流事業参加回数が多くなるほど本事業参加後に、「日本国内でボランティア活動に参加するようになった、または参加の頻度が増えた」と回答した者の割合が高くなる傾向がある。

図108 「日本国内でボランティア活動に参加するようになった、または参加の頻度が増えた」の回答



【参考】

一年間にボランティア活動を実施した割合(20~24歳)：21.2%
(「社会生活基本調査」平成24年7月：総務省統計局)

【事業参加者は事業後も継続的に交流をしている】

- 本事業参加者の14.9%が、「交流した外国の人と交流を続けている」と回答している。また、38.7%が、「国際交流事業と一緒に参加した日本人と交流を続けている」と回答している。
- 性別に見ると、女性の方が男性よりも本事業参加後に、「交流した外国の人と交流を続けている」及び「国際交流事業と一緒に参加した日本人と交流を続けている」と回答した割合が高い。
- 本事業を含む国際交流事業参加回数別に見ると、国際交流事業参加回数が多くなるほど本事業参加後に、「交流した外国の人と交流を続けている」と回答した割合が高くなる傾向がある。特に「3回以上」はその割合が高く、5割程度である。

図 105 「交流した外国の人と交流を続けている」の回答

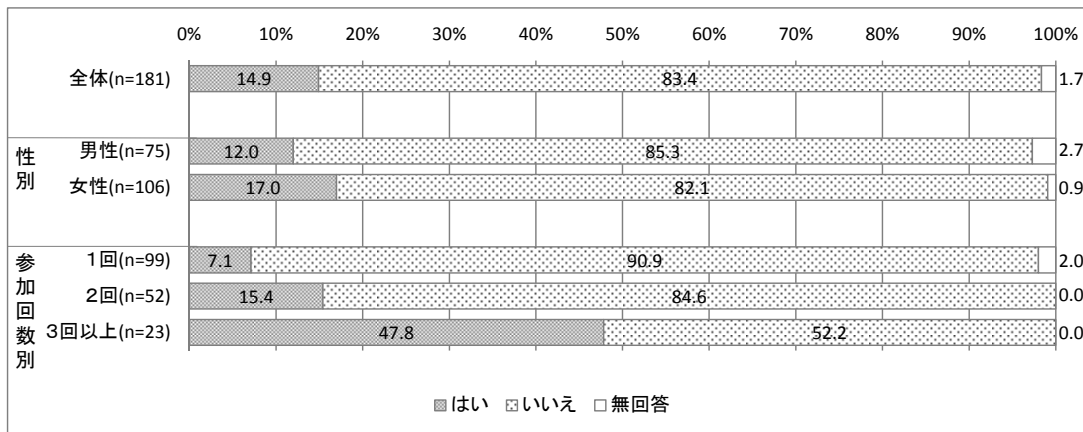
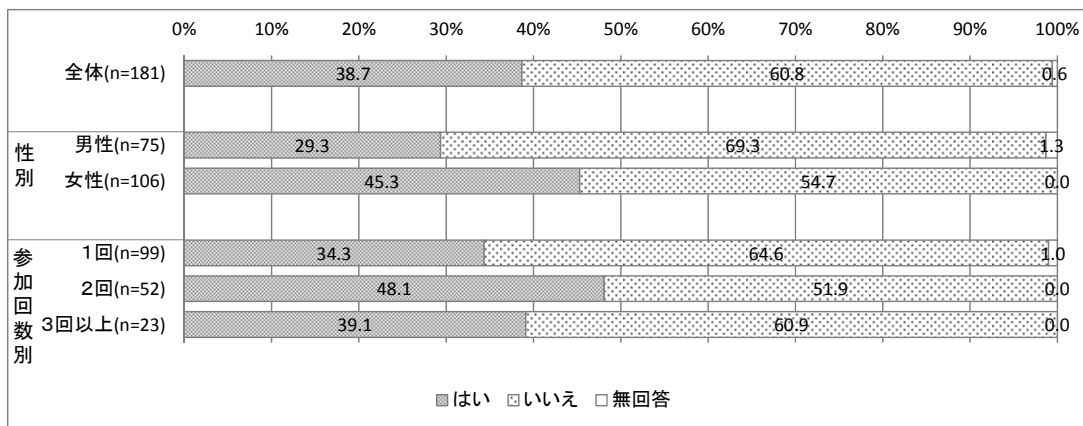


図 107 「国際交流事業と一緒に参加した日本人と交流を続けている」の回答

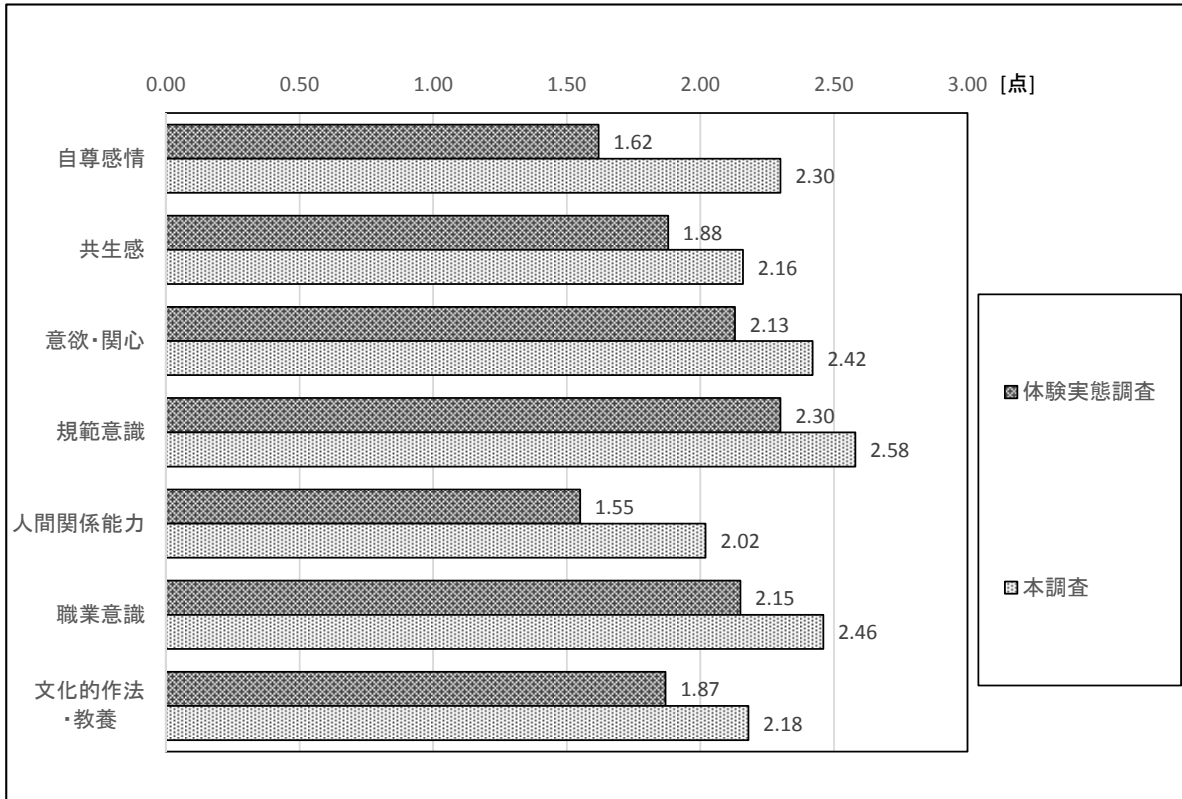


2. 本事業参加者の現在の「体験の力」の実態

【本事業参加者の「体験の力」は、『体験実態調査』よりも高い】

- 本事業参加者の「体験の力」は全てのカテゴリーにおいて、『体験実態調査』における20歳代の結果よりも高くなっている。特に、自尊感情及び人間関係能力についてはその差が大きい。

図 101 「体験の力」各カテゴリー得点



※ 「体験の力」の各カテゴリー得点の算出方法

各カテゴリーに関する各項目の回答を「とてもあてはまる」を3点、「ややあてはまる」を2点、「あまりあてはまらない」を1点、「まったくあてはまらない」を0点と得点化し、項目の平均値を合計した。これを項目数で割ったものを各カテゴリーの得点とした。ただし、規範意識に関する「電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う」については逆転項目であるため「とてもあてはまる」を0点、「ややあてはまる」を1点、「あまりあてはまらない」を2点、「まったくあてはまらない」を3点と得点化した。

※ 「職業意識」の質問項目

比較対象とした『体験実態調査』における質問項目「お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う」「今が楽しければ、それでいいと思う」の2設問を、本調査では「ボランティア活動をしたと思う」に変更して実施したため、単純に比較はできない。

【本事業参加者は「いろいろな国にいてみたい」と感じている】

- 個別の質問について見ると、「叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う」「交通規則など社会のルールは守るべきだと思う」が「とてもあてはまる」と回答した割合が高くなっており、『体験実態調査』の比較では、「いろいろな国にいてみたい」「できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う」の差が大きい。

【本事業への参加に加え、さらに国際交流事業に参加することで「体験の力」は高まる】

- 本事業参加者の中でも、国際交流事業参加回数が増えるほど「体験の力」の各カテゴリーに関する項目について「とてもあてはまる」と回答した割合が高くなる傾向がある。

例)

- ・「もっと深く学んでみたいことがある（意欲・関心）」
- ・「人前でも緊張せずに自己紹介ができる（人間関係能力）」
- ・「できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う（職業意識）」

【女性の方が男性よりも「体験の力」が高い】

- 性別に見ると、「体験の力」の各カテゴリーに関する項目のうち、27項目で女性の方が男性よりも「とてもあてはまる」と回答した割合が高くなっている。

例)

- ・「友達がとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる（共生感）」
- ・「ボランティア活動をしたいと思う（職業意識）」
- ・「ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ（文化的作法・教養）」

図 98 「体験の力」の各カテゴリーに関する項目について「とてもあてはまる」と回答した割合
(本調査と『体験実態調査』の比較)

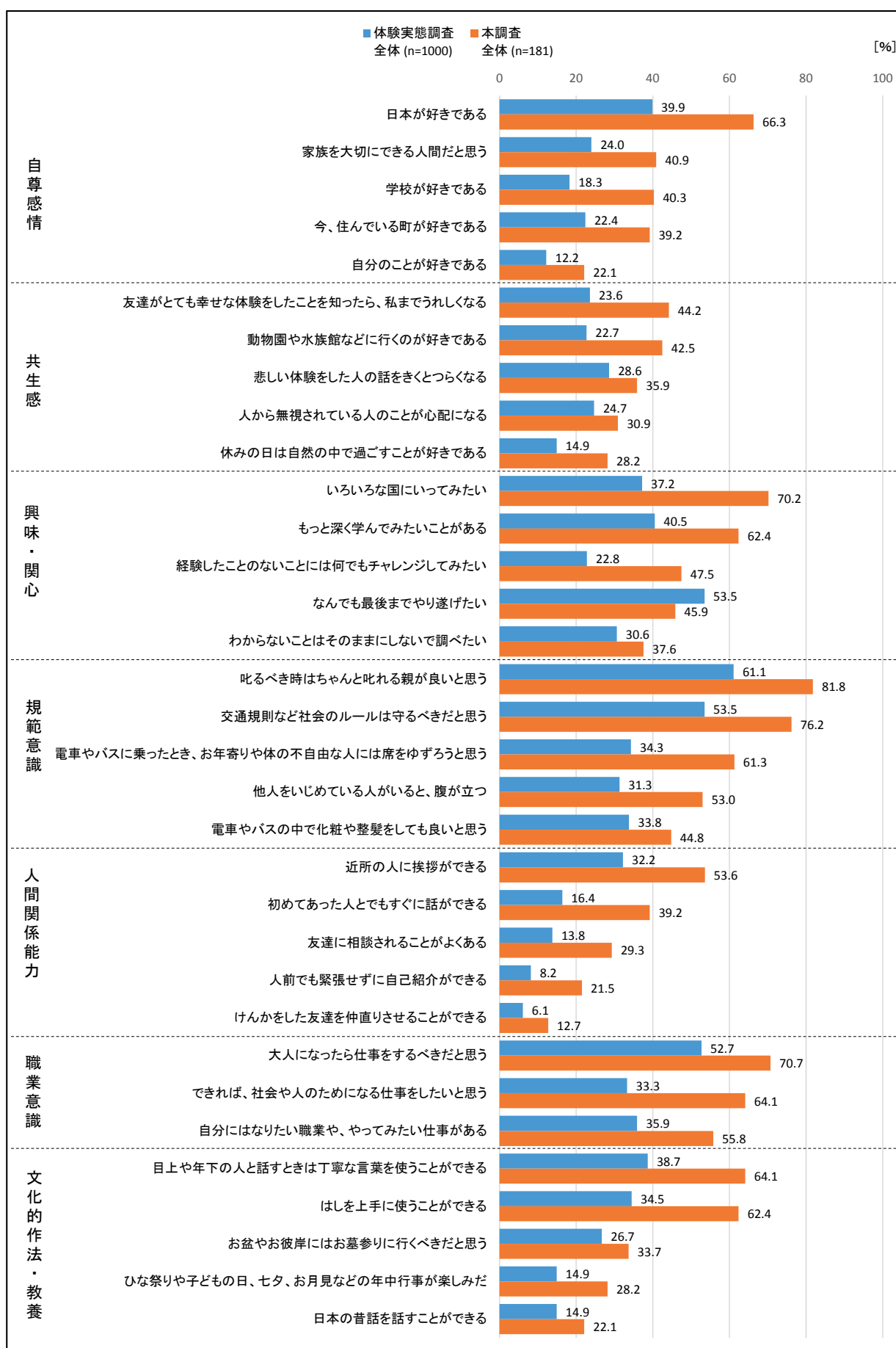
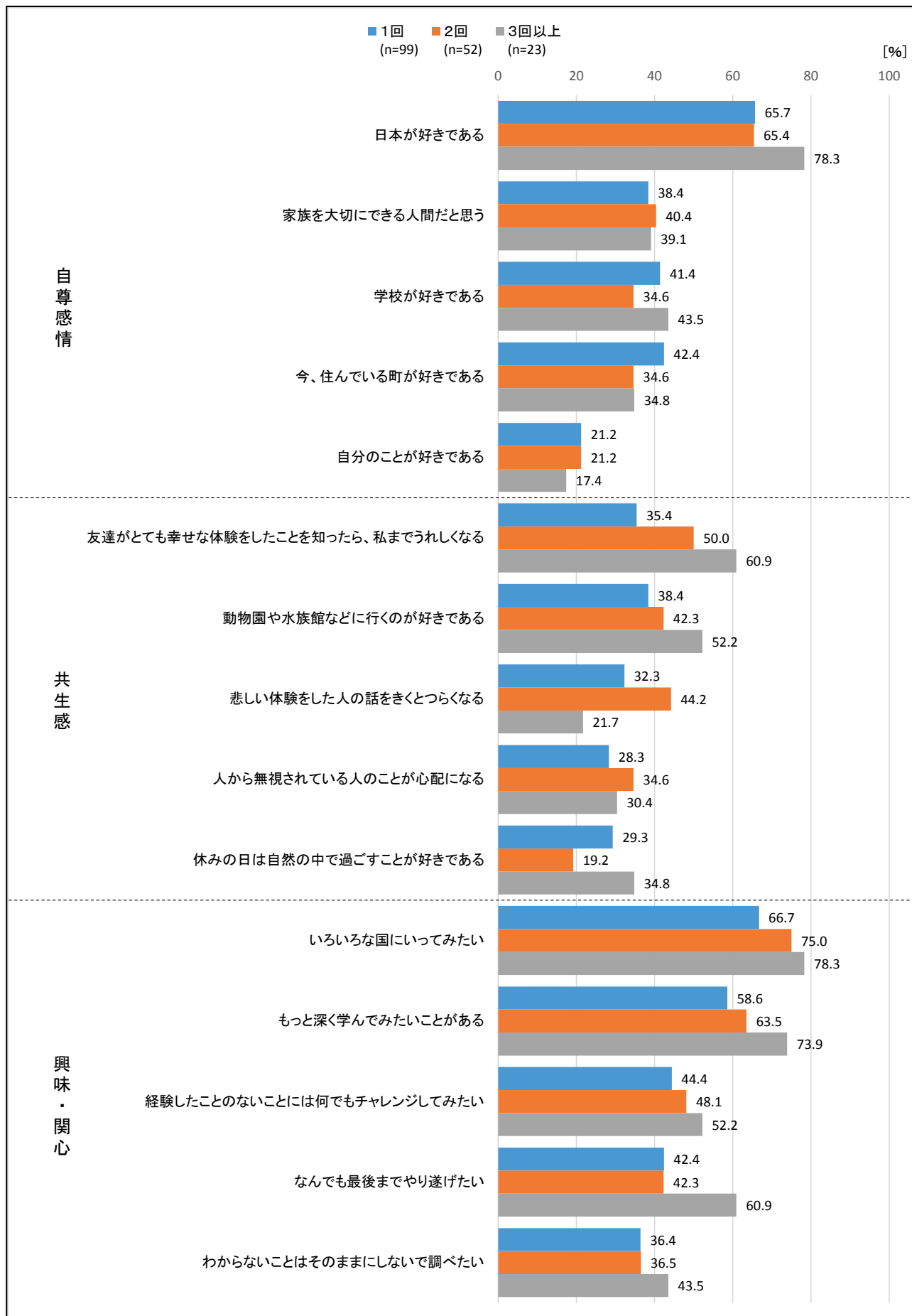


図 100 「体験の力」の各カテゴリーに関する項目について「とてもあてはまる」と回答した割合
(国際交流事業参加回数別)



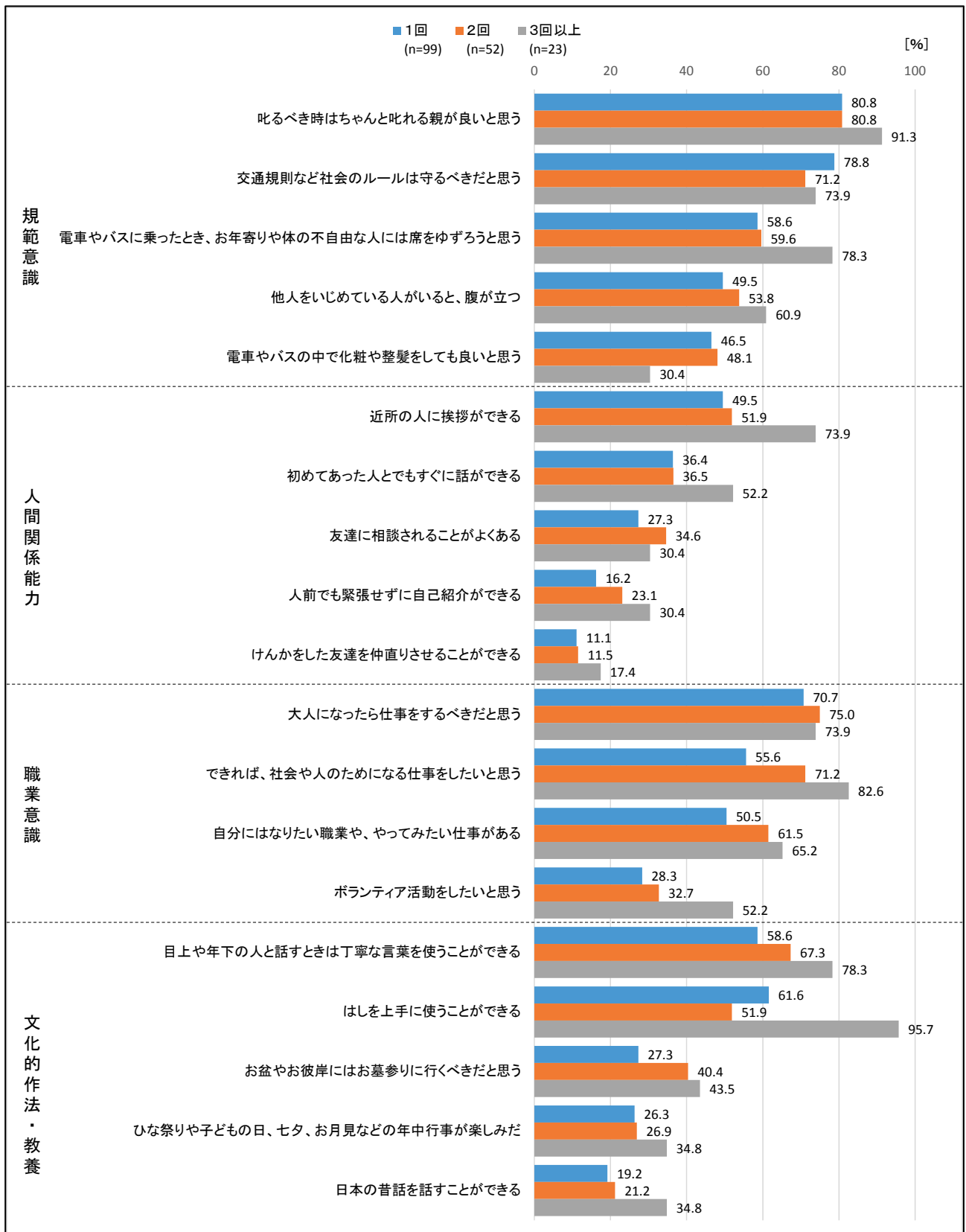
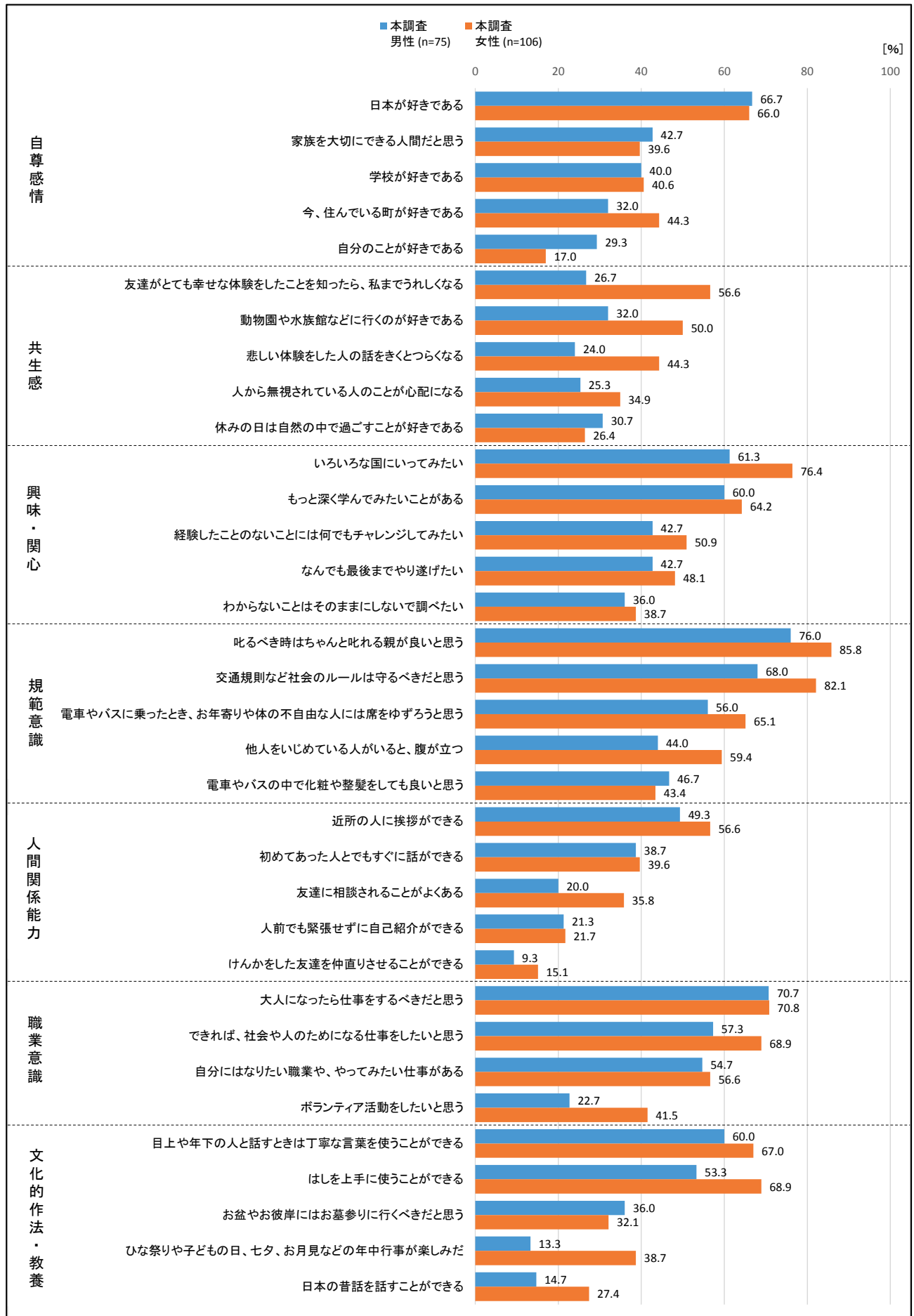


図 99 「体験の力」の各カテゴリーに関する項目について「とてもあてはまる」と回答した割合（性別）



本事業の成果

成果① 本事業への参加経験が、海外留学やボランティア活動につながっている。

成果② 本事業参加者は当時一緒に活動した現地の方と現在も交流している。また、一緒に事業に参加した日本人とも継続的に交流している。

成果③ 本事業参加者は事業参加から概ね10年経過した現在、一般成人よりも「体験の力」が身に付いている。とりわけ、各カテゴリーにおいては、自尊心や人間関係能力が高い。

成果④ 本事業参加者のうち、女性の方が事業後意欲的に活動し、「体験の力」も身に付いている。

今後の課題

本事業への参加者は同じプログラムを体験しているにもかかわらず、男性への影響が女性に比べて低かった。今後は、いかに男性の活動意欲を高めていくか工夫が必要である。

【参考】調査回答者内訳

(名)

年齢	男性	女性	合計
19	4	5	9
20	11	14	25
21	16	22	38
22	16	21	37
23	12	17	29
24	9	13	22
25	4	11	15
26	3	2	5
未記入		1	1
小計	75	106	
合計	181		

【参考1】ミクロネシア諸島自然体験交流事業プログラムについて

本事業のプログラムは、ミクロネシア地域各島での自然体験（海での活動、トレッキング、無人島などでの宿泊体験等）や現地の人々との交流体験（家庭への1日訪問、スポーツ交流等）を9泊10日で実施している。

平成18年度のミクロネシア連邦チューク州プログラム

日次	月日 (曜)	地名	現地時刻	交通機関	日程
1	7/25 (火)	成田国際空港 成田発 グアム着	08:00 10:30 15:00	飛行機 専用バス	指定場所に集合後、搭乗手続き 特別待合室にて結団式 空路：グアムへ 着後：ホテルへ【オリエンテーション】 [グアム：ガーデンヴィラホテル泊]
2	7/26 (水)	グアム発 チューク着 (モエン島)	07:05 08:45	専用バス 飛行機 専用バス	空港へ 空路：チュークへ 歓迎会後 昼食 【オリエンテーション】州政府スタッフからミクロネシア滞在中の諸注意及び、ミクロネシアの自然・文化についての講義 [チューク：ブルーラグーンリゾートホテル泊]
3	7/27 (木)	モエン島 ～ トノアス島 ～ ピサール島	09:30	専用ボート 専用ボート	【スポーツ交流・異文化体験】 トノアス島へ移動し、現地の子どもたちとスポーツ交流、バスケット作り体験、ピサール島（無人島）へ移動し、自然体験学習及び環境保護活動の説明、遊泳。 [ピサール島泊]
4	7/28 (金)	ピサール島			【野外体験、環境保護活動】 ピサール島にてゴミ拾いやトレッキングなど野外体験活動、環境保護活動や島内の自然探索 遊泳・グループ別研修 キャンプファイヤー [ピサール島泊]
5	7/29 (土)	ピサール島 ～ モエン島		船	朝：ピサール島からモエン島へ 午後：グループ別行動（歌・英語の練習） [チューク：ブルーラグーンリゾートホテル泊]
6	7/30 (日)	モエン島	09:30 20:00	送迎車 送迎車	【家庭訪問】 二人一組で現地の子どもたちの家庭を訪問、現地の家庭訪問を通して生活・風習の違いを体験学習（昼食、夕食とも各家庭にて） [チューク：ブルーラグーンリゾートホテル泊]
7	7/31 (月)	モエン島		専用バス	【異文化体験学習】 午前：ザビエル高校見学 午後：スティックダンスの体験 さよならパーティー [チューク：ブルーラグーンリゾートホテル泊]
8	8/1 (火)	チューク発 グアム着	10:50 16:00 17:15	専用バス 飛行機	空港にて早めにチェックイン 昼食・アンケート・終了証など 空路：グアムへ [グアム：ガーデンヴィラホテル泊]
9	8/2 (水)	グアム発 成田着	09:45 12:00 14:40	専用バス 飛行機	空港へ 空路：成田へ 着後：解団式後 解散

【参考2】ミクロネシア地域の地図

